



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 広報誌

OICIだより

Take
free

Osaka International Cancer Institute

季刊

Vol. 012

2023 Autumn

★ CONTENTS

- 02 当センターの論文をご紹介します
- 03 抗がん剤の治療効果を高める新たなメカニズムを発見!
- 04 がんロボット手術センター新設のお知らせ
- 04 大型医療機器更新に向けたご寄付のお願い
- 05 LAVENDERRING 大阪 2023 開催報告
- 05 セ夕会を開催いたしました
- 06 日本外科学会優秀論文賞 (Best Surgery Today Award)
受賞にあたって
- 06 2023年度 日本胆道学会国際交流奨励賞受賞しました
- 07 成人病公開講座・スキンケア教室 (オンライン配信)
のお知らせ
- 07 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 08 ご寄付について
- 08 「OICIだより」に関するアンケートにご協力をお願いいたします



当センターの論文をご紹介します

当センターはがんを専門にする医療機関として、「患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発」の理念の基に、患者さんの視点を大切にしながらがんの医療に取り組んでいます。理念のように、現在最善と考えられる高度医療を提供するだけでなく、将来の治療成績の向上を目指して、新たながん医療の開発にも尽力しています。

そのために日常診療とともに研究にも力を入れており、研究成果を多くの英文論文として、世界に発信しています。その中から高い評価を受けている雑誌に掲載された論文の一部をご紹介します。

英文論文 インパクトファクター* ベスト3 2023年5月～8月時点



高橋 秀典、秋田 裕史、和田 浩志、宮田 博志、江口 英利、大東 弘明、左近 賢人、石川 治：リンパ節転移と血管侵入は膵がん手術後に、それぞれ別々の時期の再発を予測できる。

Ann Surg (12.97) doi:10.1097/SLA.0000000000005879, 2023.



金坂 卓、藤井 隆、宮田 博志：下咽頭癌に対する術前化学療法と内視鏡切除。

Clin Gastroentero Hepatol (11.38) 21(7):A43-44, 2023.



竹内 洋司、濱田 健太、中平 博子、嶋本 有策、櫻井 裕久、谷 泰弘、七条 智聖、前川 聡、金坂 卓、山本 幸子、東野 晃治、藤澤 文絵、江副 康正、石川 秀樹、武藤 倫弘、上堂 文也、野島 正寛、石原 立：家族性大腸腺腫症患者の多発十二指腸腺腫に対する徹底的ポリープ切除の有効性と安全性。

Endosc (10.09) 55(6):515-23, 2023.

*…それぞれの分野内で持つ相対的な影響力の大きさ（質）を測る指標の1つ。太字の数字で示します。掲載された論文が一年あたりに引用される回数の平均値で、値が高い方が重要とされている。

【各論文についての講評】 総長 松浦 成昭



膵がんの手術後にしばしば再発が起り、どのような因子が再発に関係するのかを知ることは重要で報告されてきましたが、再発時期まで考慮した検討はされてきませんでした。高橋ら（消化器外科）は、リンパ節転移があると5年経過してからも再発の危険性があるが、血管侵入は早期再発には重要だが、3年たつと再発の危険性はなくなることを示しました。この観点からの研究は初めてで、時期も考えて対応することが大切です。



金坂（消化管内科）藤井（頭頸部外科）宮田（消化器外科）は、上皮下に浸潤する下咽頭がんに対してまず抗がん剤の化学療法で小さくしてから、内視鏡でうまく完全に切り取った症例を写真とともに報告しました。下咽頭がんは声を出す喉頭の近くにあり、手術で喉頭まで大きく取ると声が出なくなります。まず化学療法を行った後に、最小限の内視鏡切除で喉頭を残すことは患者さんのQOL（生活の質）の観点から大変有意義な方法です。



大腸にポリープがいっぱい出来る家族性大腸腺腫症という病気には、しばしば十二指腸にも腺腫性ポリープがたくさん出来て、放置するとがんになります。竹内ら（消化管内科）はコールドポリープ切除術や浸水下粘膜切除術などの安全な新しい方法を用いて、ポリープをできるだけたくさん取ることにチャレンジしました。1回に数10個のポリープを取るという高難度で時間もかかる大変な方法ですが、大きな合併症はありませんでした。これを行うことで病期（病気の時期）を下げることができたので、意味のある方法です。

今後も、当センターでは、豊富な人材と高度な医療技術で「研究・開発」から「診療・治療」まで総合的に高度ながん医療の提供と開発を実践してまいります。

抗がん剤の治療効果を高める新たなメカニズムを発見！

当センター研究所の原田 陽一郎主任研究員（兼チームリーダー、糖鎖オンコロジー部）は、理化学研究所、慶應義塾大学、岡山大学、大阪大学、米国 Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute との多施設共同研究により、糖の1種であるマンノースが抗がん剤の治療効果を高める新たなメカニズムを発見しました。この研究成果は、抗がん剤治療の副作用の軽減に道を開くもので、その詳細は2023年7月18日に国際学術誌「eLife」に掲載されました。

＜概要＞

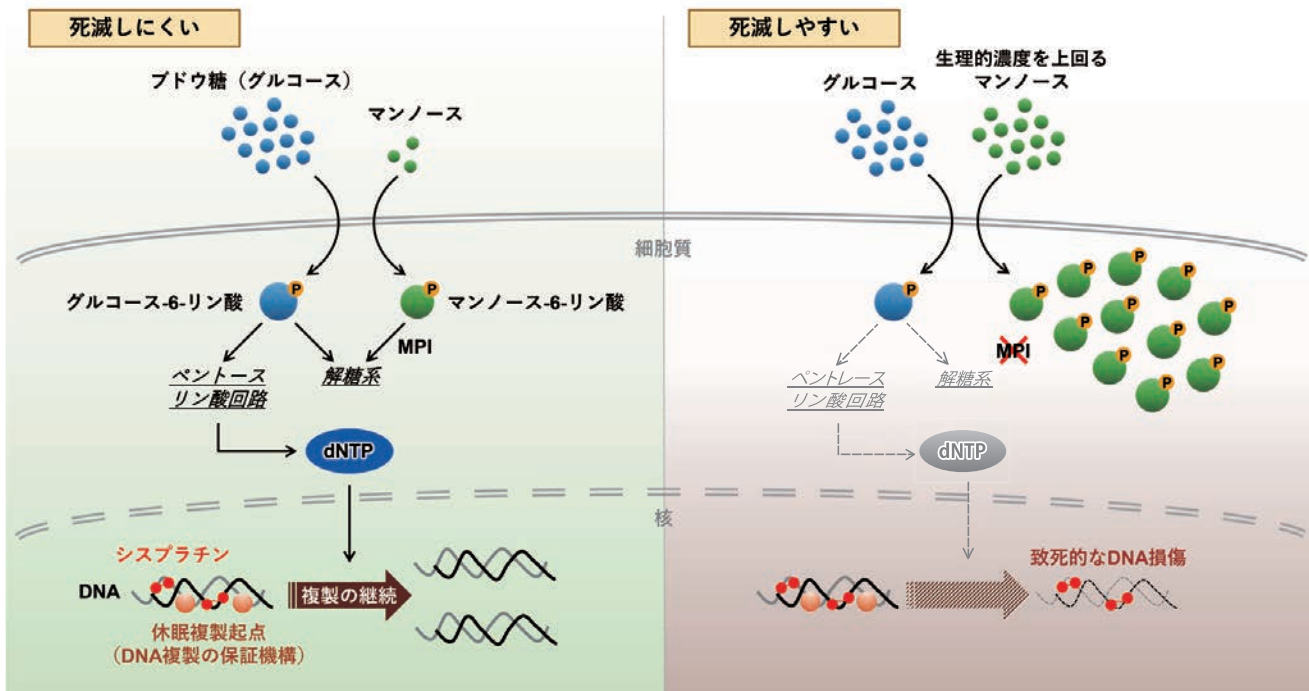
シスプラチンは、食道がんや頭頸部がんをはじめ多くのがんの治療に広く使われている抗がん剤で、遺伝情報のもとになるDNAの複製を妨害することにより、がん細胞の増殖を抑えます。シスプラチンは高い治療効果を示しますが、腎機能の悪い患者さんは治療を受けられませんか、治療を受けられる患者さんも吐気や腎障害で苦しみ、長期に治療を続けるのが難しくなります。シスプラチンの治療効果を高めて投与量を減らすことができれば副作用が抑えられるので、長期に使い治療効果を高めることが可能になります。しかし、シスプラチンの治療効果を高める薬剤はまだ開発されていません。

研究グループは今回、ブドウ糖によく似たマンノースがシスプラチンの治療効果を高める作用を持つことに着目しました。がん細胞は、シスプラチンによってDNA複製が妨害されてもそれを克服する生き残り戦略を備えています（参考図の左）。ところが、マンノース

スを多量に投与されたがん細胞はこの戦略に必要な物質（デオキシリボヌクレオシド三リン酸「dNTP」）を十分に作れなくなり、シスプラチンの作用に耐えられず、死滅しやすくなることを発見しました（参考図の右）。

今回の研究成果により、マンノースはがん細胞にdNTPを作らせないようにしてシスプラチンの治療効果を高めていることが分かりました。このようなマンノースの治療効果を得るには多量のマンノースを投与する必要があります。マンノースは私たちの血液にもありますが、とても少なく、増やしすぎると人体に害を及ぼす場合があるため、がん治療への応用には至っていません。今後、研究グループは少量でもシスプラチンの治療効果を高めることができる薬剤の開発を目指し、マンノースががん細胞にdNTPを作らせない詳しいメカニズムを明らかにしていきます。今後の研究の成果は、患者さんへの負担が少ない抗がん剤治療法の開発につながることを期待されます。

＜参考図＞



詳細は、[ホームページをご覧ください](https://oici.jp/hospital/news/6723/)
<https://oici.jp/hospital/news/6723/>



がんロボット手術センター新設のお知らせ

センター長 大森 健（消化器外科）
副センター長 中山 雅志（泌尿器科）

2023年9月1日より、がんロボット手術センターを新設いたしました。このセンターは、皆さまにがんに対するロボット手術についてより詳しくご理解いただき、当センターでの治療を安心して受けていただけるようにすることを目的としています。そのため、ロボット手術を行う各診療科、麻酔科、看護師、臨床工学技士、その他の医療スタッフとの連携を強化し、よりスピーディーかつ安全な手術を提供してまいります。

近年、がんの診断と治療技術が進歩し、がんサバイバーの数が増加しています。このため、手術は根治だけでなく、より低侵襲で、生活の質（QOL）向上を重視する治療法へと変化しています。ロボット支援手術は、手の振れを防止する機能やモーションスケール機能*を備えており、従来の開胸手術や開腹手術、また胸腹腔鏡手術と比較して、より精密な手術が行え、低侵襲、機能の保全、予後の改善が期待されています。当センターは、各診療領域で国内トップクラスの手術実績を誇る病院であり、全ての患者さんにご満足いただける最高水準の医療を提供する使命を担っております。

がんロボット手術センターの設立により、各診療科の経験とアイデアを生かし、より先進的で安全な手術の研究と開発に取り組んでまいります。今後とも皆さまのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

*…大きな手の動きを小さなゆっくりとした動きに縮小して鉗子に伝える機能



大型医療機器更新に向けたご寄付のお願い

当センターは、大手前への移転から10年を迎える2026年度以降、放射線治療装置や手術支援ロボットといった大型医療機器の更新時期を迎えます。

これからも、患者さんへ安全で質の高いがん医療を提

供し続けていくには、最先端技術を備えた医療機器の充実が欠かせませんが、これらの医療機器の購入には多額の経費が必要となりますので、皆さまからのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

●●●● ●ご寄付の申込方法を拡大いたしました●●●●

10月より、従来の申込方法に加え Web サイトからのお申込みを開始いたしました。今後は、**クレジットカード、Google Pay、Apple Pay（1回あたり100万円まで）**によりご寄付いただくことも可能になりました。



● Web サイトからのお手続き

[ご寄付のページ](https://oici.jp/center/effort/donation/ogatairyokiki/)よりお申込みください
<https://oici.jp/center/effort/donation/ogatairyokiki/>

● センター内での手続き

担当者が伺いますので、総合案内またはお近くのスタッフへお声掛けください。

● ご郵送・FAX での手続き

[ご寄付のページ](#)より「寄付申込書」をダウンロードしていただき、必要事項をご記入の上お送りください。

[ご寄付のページ](#)



〔郵送先〕 〒541-8567 大阪市中央区大手前3丁目1番69号
地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター
総務・広報グループ 寄付担当者 宛
〔FAX 番号〕 06-6945-1900

皆さまからの温かいご支援を
心よりお待ちしております。

LAVENDERRING 大阪 2023 開催報告

アピアランスケア WG/AYA 世代サポートチーム / 血液内科 多田 雄真

社会にはまだまだがんサバイバーへの誤解や偏見が多く存在します。LAVENDER RING は『すべてのがんサバイバーを、笑顔にする。』をスローガンに、がんサバイバーシップの課題にサバイバーの「笑顔」という切り口で光を当て、「社会のがんサバイバーに対する視点を変える」ことを目的とする取り組みです。今年は大阪をはじめとする全国各地で Make up & Photos (写真撮影会) とポスター展が開かれています。

当センターでも LAVENDER RING の皆さまと協働し、7名の患者さんの「笑顔」のポスター撮影と、谷町四丁目駅への地下道を含むセンター内・外のポスター展、最終日のトークセッションまで無事に開催を終えることができました。今回の開催にご尽力いただいた多くの方々に改めて感謝申し上げます。われわれ医療者も、全てのがんサバイバーが笑顔で生きられる社会の実現を目指してこれからも活動してまいります。

6月29日に開催された撮影会の様子



ポスター展の様子 ※現在は終了しています



七夕会を開催いたしました

7月13日、患者サービス向上委員会主催で、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで入院患者さんを対象に「七夕会」を開催いたしました。

会の前半では、短冊づくり・うちわづくりを行いました。短冊づくりでは、切なる願いを短冊に託され、会場の前方に設置した笹を美しく彩りました。うちわづくりでは、思い出を語りながら童心に戻り、夏の風物詩のシールを貼り付けて楽しんでおられました。

会の後半のプロジェクション花火大会では、少し暗くした室内で昨年のなにわ淀川花火大会の映像を鑑賞しました。大輪の夜空の花を、皆さん思い思いに満喫されていました。

約30名の患者さんを多職種でサポートさせていただき、大変和やかな会となりました。「楽しい、子どもにかえったみたい」「ありがとう！気が紛れたわ」と笑顔で帰られ、夏の訪れを感じさせる、季節感あふれるイベントとなりました。

ご入院中の皆さまへ、入院中も7月の「七夕会」を通して、ひと時ですが、季節を感じて癒しを感じたり楽しんだりしていただきたいという職員の願いより催しを開催いたしました。



日本外科学会優秀論文賞 (Best Surgery Today Award) 受賞にあたって

消化器外科・大腸外科 安井 昌義

このたび、日本外科学会より優秀論文賞 (Best Surgery Today Award) を頂きましたので報告いたします。

論文のタイトルは「Risk factors for postoperative proximal deep vein thrombosis and pulmonary embolism after laparoscopic colorectal cancer surgery: analysis of a multicenter randomized controlled trial」であり、腹腔鏡下大腸がん手術の術後のエコノミークラス症候群（静脈血栓症 / 肺塞栓症）に焦点を当て、その中でも死亡に至る危険性があるエコノミークラス症候群を発症するリスクが高い患者さんを特定することを目的としました。

大腸がんの術後には、エコノミークラス症候群が原因となり稀ですが死亡に至る患者さんがおられます。術後の早期リハビリや薬物（血液をサラサラにするお薬）に

よる予防が重要とされますが、薬物に関連した術後出血など副作用も起こりうるため合理的で効率的なエコノミークラス症候群予防を計画する必要があります。

本論文では、この症候群の発症頻度が低いといわれる日本の患者さんにおけるランダム化比較試験から得られたデータであること、そして日常診療にフィードバック可能な結果が得られたことを評価していただいたものと考えております。

当センターでは平素から多くの部門・診療科のスタッフが、エコノミークラス症候群の診断、発見、予防に力を尽くしています。これからも大腸がん患者さんが安全で有効な、より良い治療を受けられるように診療・研究・治療開発していく所存です。今後とも何卒よろしく願います。

2023 年度 日本胆道学会国際交流奨励賞受賞しました

肝胆膵内科 池澤 賢治

このたび 2023 年 9 月 14 日に、2023 年度日本胆道学会国際交流奨励賞を頂く栄誉に預かりました。2023 年 5 月にアメリカ・シカゴにて開催された DDW において、ERCP 時の医療者の放射線被ばくに関する多施設共同研究の内容で口演発表 (OCCUPATIONAL RADIATION EXPOSURE TO THE LENS OF THE EYES DURING ENDOSCOPIC RETROGRADE CHOLANGIOPANCREATOGRAPHY (ERCP): A MULTICENTER PROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY) をさせていただき、その講演が受賞対象となりました。ERCP 時の医療者被ばくは近年重要な課題であり放射線防護の意識も上がりつつありますが、いまだこの分野においては十分な研究がなされていないのが現状です。本研究においては、多施設前向き研究で ERCP 時の眼への被ばくを専用の測定器にて測定し、放射線防護メガネによる被ばく低減率、患者被ばくの指標と医療者被ばくの指標の相関などを検討し、重要な知見を得ました（本研究の内容は論文報告もさせていただいております (Ikezawa K,

et al. Sci Rep. 2023;13 (1) :7824.)。

本研究にご協力いただきました当センターの医療スタッフの皆さま方、またご指導いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。今後もさまざまな形で実診療に還元できるような研究を行えるよう、なお一層精進してまいりたいと思います。

今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



▲アメリカDDW学会発表時

授賞式での様子▶



成人病公開講座・スキンケア教室 (オンライン配信)のお知らせ



当センターでは、成人病公開講座およびスキンケア教室をオンライン配信しております。
当センターのホームページより視聴いただくことができます。ぜひご覧ください。

成人病公開講座では、当センターの診療科における専門の医師が、それぞれのがんの特性や、診療・治療に関することを詳しく解説、またそれらの医療に対する連携などの取り組みについて紹介されています。

成人病公開講座
動画はこちら



スキンケア教室では、当センターの医師・薬剤師・看護師・美容師ががん薬物療法に伴う皮膚乾燥、皮疹、かゆみ、脱毛、爪囲炎などの皮膚障害に対するスキンケアの方法をお伝えしています。

スキンケア教室
動画はこちら



はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター 河上 明子

[file 012]

「補完代替療法について考えてみよう」

患者さんやご家族は、治療効果をさらに高めたいという思いから、標準治療（手術、抗がん剤治療、放射線治療など）に加え、健康食品やサプリメントなどを使用されることがあります。これら標準治療を補完、代替する食品や行為を総称して“補完代替療法”と呼んでいます。

2005年に国際学術誌に掲載された日本の調査¹⁾では、がん患者さんの44.1%が何らかの補完代替療法を併用していたと報告されています。

まず知っていただきたいことは、がん治療中の方向けとしているもの、「〇〇大学教授が推奨」「がんが消えた！」などの言葉が記されているものについて、現在のところ、がんへの効果が科学的に証明されているものはないということです。中には、がんやがんの治療による心や体のつらさを和らげる効果が期待できる“かもしれない”もの、逆に「使うべきではない」と判断されているものなど玉石混交です。²⁾

では、どうすればよいのでしょうか。

最も気を付けていただきたいことは、補完代替医療の効果や副作用について十分な情報を確認せず、また医師や看護師、

薬剤師、栄養士にも相談せずに使い始めたり使い続けたりすることです。確かな情報が手に入るWEBサイトで確認する、病院のスタッフに話してみることが大事です。また、がん相談支援センターでお気持ちを伺うこともできます。まず不安や希望についてコミュニケーションをとることから始めてみましょう。

(出典)

1) Hyodo I, Amano N, Eguchi K et al: Nationwide survey on complementary and alternative medicine in cancer patients in Japan. Journal of Clinical Oncology 23: 2645-2654, 2005.

2) 国立がん研究センターがん情報サービス『がんと民間療法 (健康食品・サプリメント・食事療法を中心に)』
https://ganjoho.jp/public/dia_tre/cam/health_food_products.html



(参考になる情報)

厚生労働省『「統合医療」に係る 情報発信等推進事業』
<https://www.ejim.ncgg.go.jp/public/doc/index.html>



公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構 がん情報サイト (PDQ® 日本語版)『統合、代替、補完療法』
https://cancerinfo.tri-kobe.org/summary/complementary_alternative



ご寄付について

寄付者ご芳名 2023年6月1日～9月30日 受領日順／ご希望者のみ掲載

大社 啓二様、木下 正子様、Otsuka (Philippines) Pharmaceutical, Inc. (大塚製薬株式会社フィリピン支社)様、フルテック株式会社 代表取締役 古田 吉雄様、古田 直吉様、古田 吉雄様、西山 通様、西山 恵文様、上原 洋一郎様、横山 淳二様、磯田 美智江様、片岡 すえみ様、二井矢 裕紀様、水田 由美香様、水田 昭子様、大嶋 俊一様、大川 敦子様、磯邊 延子様、田淵 収様、吉川 優子様、山本 幸彦様、林 智洋様 他 匿名者 28名

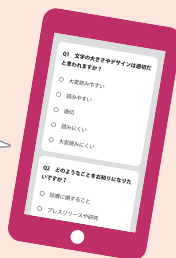
このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。患者さんの療養環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆さまのご支援を心よりお待ちしております。

お申し込み方法など詳細はホームページをご覧ください。 <https://oici.jp/center/effort/donation/>



「OICI だより」に関するアンケートにご協力をお願いいたします

当センターでは、旬なできごとなどを院外広報誌へ掲載させていただくことで、患者さんやご家族との架け橋になりたいと考えています。よろしければ、ぜひ皆さまのお声を聞かせ願えますと幸いです。



全部で6問です！

右記のQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただき、Google フォーム上にてご回答ください。



電子媒体にてご覧いただいている方は、こちらのURL をクリックのうえアクセスすることも可能です。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdovYFoVLQR7ZERPemsPgp0TjQyryJok8p1Hf8bfkE-X-FqnA/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0>

OICIだより 2023年秋号〈季刊〉



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 総務・広報グループ

〒541-8567

大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL.06-6945-1181 (代表)

2023年10月発行



ホームページ



<https://oici.jp/>

フェイスブック



[@oici.jp](https://www.facebook.com/oici.jp)

ライン



<https://lin.ee/Z0cDhHU>

※ QR コードは (株) デンソーウェブの登録商標です。



◆電車でご来院の場合

Osaka Metro「谷町四丁目駅」北改札口から徒歩約5分 / 京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分

◆お車でご来院の場合

東大阪線「法円坂出口」より約5分 / 東大阪線「森之宮出口」より約8分